

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町 453-7 TEL: 059-373-3933/FAX: 059-374-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町 2-2-1 衆議院第一議員会館 428 号室 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○党员・サポーター募集中！

民主党の運営と活動を支え、ともに行動する〈党员・サポーター〉を募集しています。詳細は三重事務所までお問合せ下さい。また、すでに登録いただいた皆様、ありがとうございました。

○統一地方選挙に皆さんの参加を

地方選挙第一弾の知事と県会議員選挙が終わりました。ご支援、ご協力、ありがとうございました。

全国的には、知事選挙に関して、国民は、現職を迫認していく選択をしたようです。政党は、どこでも存在感を出せず、東京都知事選など、それぞれの候補者から政党がコケにされたような話がありました。しかし、県会議員選挙では、民主党勢力は、その基盤をジワリと広げることが出来たと思います。党の公認や推薦というはっきりとした看板で選挙を戦ってくれた候補者が、いい結果を出してくれたことは、嬉しいことです。

私の足元では、痛恨の極みです。鈴鹿で現職の清水一昭議員が落ちてしまいました。本人の票は前回と比べて増えていただけに残念な事です。公明票が自民新人にうまく配分されて、清水議員の票を上回った結果だという分析もあり、真剣な対策が必要だと思っています。

後半戦の市議会や市長選も始まっています。中でも、県内唯一の市長選挙であった鈴鹿市では、現職の川岸市長が無投票で決まりました。本人にとっては「ホッとした」でいいのですが、有権者にとっては、身近な市長選挙に選択肢が示されなかったことで、大きなストレスになっています。

一番身近な市議会も含めて、地方議員のうたえが変わってきています。地元の予算の箇所付け、利益誘導を言うだけの人は、めっきりと少なくなりました。若い世代を中心に、地方議会が政策の企画立案にリーダーシップをとっていくべきだ。市民のニーズとこれからの課題を、政策や条例に翻訳して社会の仕組みを作り出していく役割を担っていく。そんな意気込みを、私が応援に入っている議員たちから汲み取ることができます。

有権者の意識が大きく成長して、政治が地方から変わってきているのだと思います。

○もっと落ち着いた議論を

「憲法の国民投票法」、「米軍基地再編にともなうグアム移転への費用負担法」などの強行採決。続く、「教育関連 3 法案」や「イラクへの自衛隊派遣延長法案」の委員長職権による一方的な上程など、衆議院の後半国会は与党の強権発動が続いています。

国民投票は、この際、個人の生命観や倫理観などの問題を国民に直接問う「一般的国民投票」も可能にしたいと、私は努力をしていました。かつて臓器移植に伴う「人間の死」の定義が国会に上がってきたときには、「これは議員だけで決めるものではない。国民一人ひとりに問いかけるものだ。」と強く思ったものです。

アメリカ軍のグアム移転は、本質の議論を深めることがまったくできないまま採決してしまいました。「日米同盟による 2 国間の安保からアジアの集団安保」へ、アメリカの意図が進みつつある中で、日本政府の主体的な戦略の練り直し、今、必要なのだと思います。小泉さんも安倍さんも、この変化を感じながら、見て見ないフリをしています。だから、北朝鮮の 6 カ国協議でも孤立して身動き取れないところに追い込まれてしまうのです。

安倍さんは、参議院選挙を意識して強さを出したい。これが前に出るほど、小沢さんもこれを受けて、国会運営では戦う民主党をアピールすることになっています。本質議論のないままで、戦いだけが強調される国会は、「空回り」だと、マスコミにもきっちり書いて欲しいのです。

○トンボ帰りの日々

毎日、7 時間かけて、東京と地元の往復をしています。夜の演説会で各 7 分くらいずつの応援をしてトンボ帰り。新幹線の駅弁を食べつくしました。夜中の東京駅には、同じような人生を生活している人たちが降り立ちます。疲れた顔に目が合うと、お互いなんとなく連帯感が生まれてくるのです。